研究部だより

秋田県立栗田支援学校
研究部　第４号
令和７年１２月１９日発行

今回の研究部だよりでは、１１月に行われた小学部の授業研究会について紹介します。今年度の研究テーマである「児童生徒が生き生きと学ぶ姿」を小学部では「児童が達成感を味わい、自ら学習に取り組もうとする姿」と捉え、その実現に向け、有効だった支援や手立てについて協議しました。今年度の学部研究のキーワードとなる「児童にとって分かりやすいゴールの提示」「児童の学びの価値付け」を意識し、そのためにどのような取組みが効果的かを考えながら協議したことで、成果の共有と同時に、次時へつながる有効な手立てを検討することができました。

また、指導助言にもあったとおり、平成28年に県教育委員会から発行された、特別支援学校生活単元学習ガイドの基礎編にも今一度目を通して、授業実践に生かしていけたらと思います。

１１月 28日（金）	小学部3年　生活単元学習 「さんさんしあたーⅡ　～ぞうくんのさんぽ～」
単元について	本学年の児童は、言葉による指示や文字、イラスト、具体物などを手掛かりに自分のやることが分かって取り組むことができる。初めての学習には見通しがもてず消極的になる児童もいるが、動画やペープサート等の視覚的教材を活用することで、活動に興味をもち、落ち着いて参加できるようになってきた。 本単元は、年間を通して取り組む絵本を題材にした劇遊びとその発表活動の2回目であり、絵本「ぞうくんのさんぽ」を題材としている。登場する動物達のせりふを模倣して友達との言葉の掛け合いをする場面を設定することで、児童同士が言葉や身振りでやりとりすることが期待できる。児童の実態に応じた役割を友達同士楽しく関わりながら果たすことで、児童は満足感や達成感を感じ、自信をもって自分の役割を務めたり新しい活動に興味をもって取り組んだりする姿が期待できると考え、本単元を設定した。
本時のねらい	劇の流れに沿って、大きな声で自分の役のせりふを話したり、大きな動きで表現したりする。

グループ協議での意見

実態に応じた役割と活動の設定

・分かりやすいせりふや動きで、せりふカードなども効果的だった。
・児童が自分の動きやせりふが分かり、自信をもって取り組んでいた。

「頑張りポイント」の提示

・発表のポイントがイラストと文字で具体的に提示されており、児童にとって「何を頑張ればよいか」「どこに注目すればよいか」が分かりやすかった。

学びの価値付け

・TIが良かったところを具体的に褒めていて、児童が笑顔だった。
・注目するポイントが分かりやすかったことで、友達を「〇〇さんのせりふが上手」と評価でき、褒められた児童もとても嬉しそうだった。

次時に向けた手立ての工夫

・「大きな声でせりふを言う」ために今回は声の大きさを段階で示したイラストを提示し、「3の声で言おう」と目標設定していたが、「3」という声の大きさの基準があいまいだった。全員で「3の声の大きさ」を出してみて確認し合ったり、動画や声の大きさを測れるアプリを活用したりするのはどうか。

指導助言（大川　康博　教頭先生）

・視覚情報が効果的な児童なので、本時のめあてが文字とイラストで分かりやすく提示されており、工夫されていた。しかし実態に幅があるため、文字やイラストの提示で理解できない児童には、個別の支援や繰り返しの経験が大切である。まずTIの全体指示に集中させ、その後個別に支援していくという流れやTTの役割を再確認したい。
・友達の発表を見る「注目ポイント」は、「どこを見ればよいか」を焦点化し、また文字とイラストで視覚化されており良かった。グループの発表が終わるごとに、自分や友達が評価したり、TIが評価したりする場面があり、それが即時評価に当たる。児童の実態から考えると、最後の全体の振り返りは必要だったか。また大小の花丸で評価していたが、小さい花丸をもらった児童たちがプラスの気持ちで学習を終われるように、活動の過程を認めるという視点もあるとよい。